

□【道総研フォーラム「森林と住まいを地域でつなぐ」を開催します】

前回のメールマガジンでもお伝えしましたが、道総研フォーラム「森林と住まいを地域でつなぐ」を開催します。これまでの道総研の戦略研究の取り組みや基調講演、各分野の専門家やリーダーを迎えてのパネルディスカッションなど盛りだくさんの内容になっております。

当日申込みも可能となっておりますので、たくさんの皆様のご来場をお待ちしております。

詳細は、ホームページをご覧ください。

<http://www.nrb.hro.or.jp/121024senryaku.html>

日 時 平成24年10月24日（水）10：00～17：00

場 所 札幌サンプラザホール（札幌市北区北24条西5丁目）

（企画課 神田）

□【第17回住居領域学習研修会を開催します。】

第17回住居領域学習研修会を開催します。

この事業は、子ども達に住まいやまちに対する認識を深めてもらい、将来の家庭や地域を担う人を育むことを目的に、家庭科を担当するの先生を対象に住居領域の授業の大切さや方法などを知ってもらうものです。

今年のテーマは「住まいの基礎知識」で、住まい選びや維持管理、家族生活などについて解説します。

本研修会は毎年2回開催し、住居領域の学習教材に関する講義や授業実践報告などを行っています。なお、第18回は来年1月11日（金）に札幌市かでの2・7において同じ内容で開催します。

たくさんのおみなさまのご来場をお待ちしています。

詳しくはこちらをご覧ください。

<http://www.nrb.hro.or.jp/zyuukyoryouiki.html>

日 時 平成24年11月10日（土）13：00～17：00

場 所 函館市亀田福祉センター（函館市美原1丁目26番地12号）

（居住科学G 馬場）

=====
トピックス「障がい者の住まいについて」
=====

単身高齢者が所有する大きな戸建住宅や狭い賃貸住宅に住むファミリー世帯などの住宅のミスマッチを解消し、住宅のストックを有効に活用するために住み替えの研究に取り組んでいます。様々な住み替えのパターンがありますが、障がいのある方の自立した生活へのニーズに応えた住居への住み替えにも注目しています。

身体障がいの方は自立して生活する方も多く、同居の家族は配偶者と子供が多いのに対し、知的障がいの方は両親との同居が多い現状です。身体障がいの方にはバリアフリーの専用の公営住宅などが用意されてきました。一方、知的や精神の障がいの方には建築的な制限はあまりないため、逆に住まいの用意がされてきませんでした。

障害者自立支援法が施行されて施設から地域生活へと生活の場の変化が求められていますが、受け皿となるグループホームなどは不足しています。また、これまで公営住宅への入居への支援はあまりされてきませんでした。他県では県営住宅における障がい者グループホーム・ケアホームの入居が積極的に進められています。

アンケートでも将来的に親との同居からグループホームへの住み替え意向はありますが、親が面倒を見られる間は同居を続けるため、いざという時にスムーズに移行できるかという不安があります。家族による支援のみに頼らずに、社会として支援を受ける時代に対応できるように公的なサービスの提供がますます重要になっていきます。

今後も、建築と福祉の連携による住まいのハードとソフトの支援についての研究に取り組んでいきます。

(居住科学G 林)

=====
研究紹介「温湿度の見える化と居住者教育の効果」
=====

これまでの様々な技術革新により高性能化されてきた北海道の公営住宅ですが、そこで暮らす居住者の住みこなし方によっては、結露やカビの発生など様々な問題が生じる場合があります。そこで、今年の2月に道職員住宅にお住まいの20世帯にご協力いただき、温湿度の見える化と結露やカビに関するセミナーを開催し、温湿度と住まい方の変化をみる調査を行いましたのでご紹介します。

普段の生活では給気口を閉じていたり熱交換換気システムを止めている世帯がそれぞれ約半数あり、結露が発生しやすい環境であったことがわかりました。そこで、温湿度計を設置し日常で確認してもらい（見える化）、さらに結露のメカニズムや防ぎ方（室温を上げるまたは均一にすることなど）に関するセミナーを開催し、結露やカビは建物にも人間の健康にも良くないと啓発しました。見える化だけでは直接温湿度調整行動につながらず、見える化に加えてセミナーを実施することにより「熱交換換気を回す」「給気口を開ける」「北側居

室を暖房する」など結露抑制に寄与する行動が現れることがわかりました。現在公営住宅では、入居時に建物の性能や住みこなし方を説明することはありませんが、今後はセミナーや住まい方の手引きなどを充実させることにより、建物の維持管理費の削減と同時に居住者自らが快適な生活を手に入れることができるのではないかと感じました。

(居住科学部 馬場)

=====
最近の研究所の動き
=====

■【かみかわ知っ得セミナーを開催しました】

上川地域の北海道立総合研究機構3機関（上川農業試験場、林産試験場、北方建築総合研究所）が連携し、身近な話題をテーマとして3回にわたり開催する「かみかわ知っ得セミナー」の第1弾を開催しました。9月19日（水）のお昼12時5分から、上川総合振興局1階カムイミンタラホールにおいて、「初級～上級まで すまいの節電対策！」と題し、普段の暮らしの中でできる節電方法、新築・改築により住宅そのものの性能を高めることによる節電及び太陽光発電・太陽熱給湯システムの設置などの紹介を、当所の北谷研究主任がお話しました。

当日は、お昼時にもかかわらず40名を超える方にご講聴頂き、また、会場に設置した模型により日射遮蔽の例を体感して頂きました。

次回は11月19日（月）上川総合振興局1階カムイミンタラホールで開催致しますので、知って得するセミナーへぜひお越しください。

(企画課 渡辺)

■【モンゴル国における国際住宅展示会へ参加しました】

旭川建設業協会は、これまで培ってきた独自の寒冷地技術を生かし、海外での事業展開を目指したビジネスマッチングを数年前より実施しています。同協会は、北海道で一般に使われている建材を広くモンゴル国の住まい手に紹介することを目的に、本年の9月にウランバートル市で開催された国際住宅展示会に出展いたしました。これに併せ、技術アドバイザーとして、北方建築総合研究所も同行する機会を得ましたので、展示会会場で得た印象について報告します。モンゴル国は、人口が260万人前後と小さな国ですが、地下資源が豊富で、近年、その開発が活発化しています。経済発展に伴い住宅建設やインフラ整備も急速に進んでいます。住宅取得意欲は旺盛で、北方型住宅をはじめとする北海道の建築技術や住宅について、興味を持っている人が現地建設業だけでなく住民にも多いことが、今回の訪問から伺い知ることができました。寒冷地対応

の建材や工法について、高いニーズがあることはある程度予想していたのですが、意外であったのは、モンゴルの一般の方が、いわゆる道民の普通の暮らし方に非常に興味を持っていることでした。モンゴルは、元来、遊牧が主体の国で、良い意味でも悪い意味でも、「定住する家」に対して様々な習慣やひな形がありません。住宅を取得するということは、大きな買い物であることは万国共通です。どういう間取りにしたら、このような暮らし方・将来像になるといったイメージをいろいろな資料やカタログから得ようとする人が多かったのが印象的でした。

技術アドバイザーとして同行したモンゴル国でしたが、現地の方が、寒冷地技術だけではなく、道民の生活・暮らし方そのものに強い関心を持っていることは、今後の様々な提案に深く関わることであり、大きな収穫であったと思います。このたびモンゴルへの同行にお誘いいただいた旭川建設業協会に御礼を申し上げます。道内の建設業・住宅産業の更なる発展を祈念してしております。

(構法材料G 高倉)

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

■【9月の業務報告】

平成24年9月の受付件数

- 依頼試験 (担当: 性能評価課)

依頼試験	6件 (累計 110件)
設備使用	1件 (累計 24件)
性能評価	1件 (累計 5件)

- 施設見学 (担当: 企画課)

件数	7件 (累計 35件)
人数	85名 (累計 297名)

- 技術相談 (担当: 企画課)

件数	6件 (累計 66件)
----	-------------

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

■【構造計算適合性判定センターから】

- 9月の判定業務

受付	31件 (38棟)
結果通知	41件 (50棟)

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行：（地独）北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所